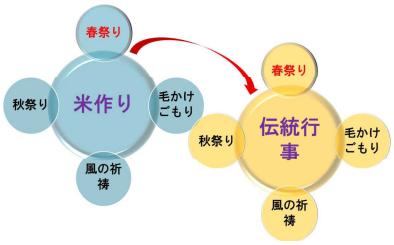
⑧

草尾さんに、昔のお祭りのことを聞きました。お祭りのころは、田を耕して肥料をまいたりする忙しい時期でした。農作業を休んで、ごちそうを食べられる祭りは、子どもだけでなく、大人にとっても楽しみだったと言っておられました。また、お渡りには馬が来て、走っていくのが怖かったそうです。

今は吐山の人たちのくらしも変わりましたが、伝統行事として春祭りが生き続けていけばいいと思います。



5　吐山の自然遺産

(1) スズラン

①

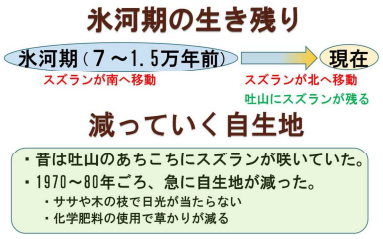
吐山のスズランは、国の天然記念物です。なぜ国の天然記念物になっているかというと、吐山のスズランは、日本で一番南に自生しているからです。

では、北国の花であるスズランが、どうして吐山に自生しているのでしょう。それを考えてみましょう。

②

7万年から1万5千年前、氷河期と言って地球が氷におおわれた時代がありました。その時代に、スズランは北では生きていけないので、南に移動しました。そして、氷河期が終わり、あたたかくなると北へ移動していきました。吐山のスズランは、その時逃げおくれて、残ったものなのです。吐山のすずしさが、スズランにはちょうどよかったのでしょう。

こうして吐山では、春になるとあちこちでスズランの白い花が咲いていました。ところが、1970年から80年ごろに、急に自生地が減ってしまいました。ササや木の枝がのび、また、化学肥料を使うようになって草刈りが減り、日当たりが悪くなったことが原因と考えられています。



③

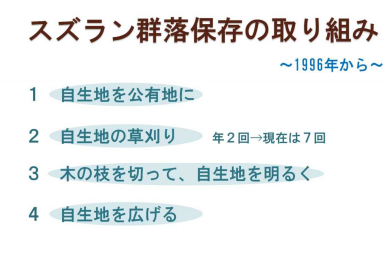
そして、スズランの自生地は、田町などわずかな場所だけになってしまいました。そこで、1996年から、スズラン群落を保存する取り組みが始まりました。取り組みは次の4つです。

1　自生地を公有地にする。

2　自生地の草刈りをする。最初は年2回でしたが、現在は7回だそうです。

3　木の枝を切って、自生地を明るくする。

4　自生地を広げていく。



④

私たちは、50年近くスズランの世話をしてこられた大西さんにインタビューしました。今は8人のグループで、年に7回、草刈りや草引きをしているそうです。刈り取った草は、たい肥にして使います。消毒とかはしないそうです。スズランの間の草を引く時は、ふみそうになるし、山のしゃ面もきついので大変だと言っておられました。

⑤
地元の人たちの保存活動により、スズラン群落は大きく広がってきています。写真を見てください。赤い線で囲まれた場所が、15年前の自生地です。そして、青い線の場所が、取り組みによって広がった自生地です。

⑥
私たちが大西さんにお話を聞いた5月21日、スズランは咲き始めたところでした。そして、5月30日、ついに満開です。

⑦
スズラン群落の近くに、香酔峠があります。
700年近く前、後醍醐天皇が吉野へ向かう途中、スズランの香りにいやされたので、香りに酔う峠、香酔峠とよばれるようらなったと伝えられています。
峠にあるレストラン香で、吉村さんにお話を聞きました。お店の名前は、香酔から付けたそうです。看板やはしの袋にスズランの絵があるのは、そのためだと思います。そして、メニューの中に、吐山のスズランや香酔峠のことを説明した紙を付けて、お客さんに知ってもらう工夫をされていました。ここでも、スズランが大事にされていると感じました。

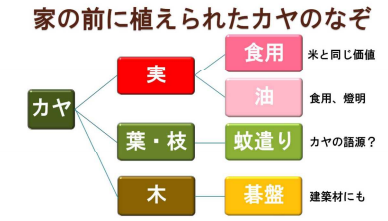
⑧
私たちは、吐山のスズランを多くの人たちに知ってもらうために、3つの提案をします。
1つ目は、駐車場の問題です。国道の横に「スズラン群落」という大きな看板があります。ところが、その横には「駐車場はありません」という看板があって、車で来た人はどこへ行けばいいのか分かりません。見学に来た人のための駐車場が必要だと思います。
2つ目は、世話をする人の問題です。前は十数人で世話をされていましたが、現在は8人になっています。チラシなどで募集して、多くの人で世話ができればいいと思います。
3つ目は、吐山をスズランの里にすることです。自生地を保存するだけではなく、スズランをいろんな所に植えるのです。きれいな花が吐山中で見られるようになれば、たくさんの人に楽しんでもらえると思います。

(2) ヒダリマキガヤ

①
向井さんの家の前にあるヒダリマキガヤは、県の天然記念物です。カヤは、奈良県ではどこにでもある木ですが、ヒダリマキガヤは全国的にもめずらしいそうです。城山から下りた吐山氏のシンボルツリーであるこの木を、紹介しましょう。
②
向井さんのカヤの木は、高さが16mで、幹周りが4m40cmありま

す。樹齢は400年ほどと言われています。江戸時代の初め頃から、ずっと吐山の歴史を見つめています。

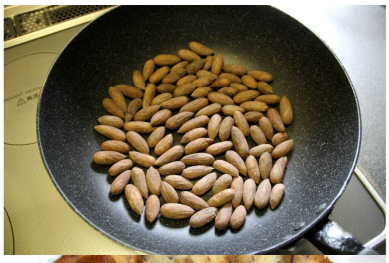
③
カヤの木は、家の近くに植えられることが多いのですが、それは、カヤがとても利用価値の高い木だからです。
実は、食べられます。飢饉の時の保存食になったので、江戸時代の年貢では、米と同じ価値があったそうです。また、実からは油がとれます。料理用の油にも使われましたが、炎が明るく冬も凍らないので、燈明用の油として欠かせなかったそうです。
葉や枝は、いぶして蚊を追い払うのに使われました。これを「蚊遣り」と言いますが、「蚊遣り」が「カヤ」の語源だという説もあります。
木は、建築用にも使われましたが、碁盤の木として有名です。



④
10月1日、カヤの実を拾いに行きました。カヤの木の下には、たくさんの実が落ちていました。
向井くんのおじいさんのお話では、子どもの頃はおやつに食べたそうですが、この頃はほとんど拾っていないということでした。

⑤
カヤの実は、緑色の厚い皮におおわれています。皮をむくと、中から茶色っぽい色をした実が出てきます。実の表面を見ると、左まきの筋が付いているのもあります。ヒダリマキガヤという名前は、この筋があることから付いたのだそうです。
ヒダリマキガヤの実は、ほかのカヤの実よりも大きく、4センチから5センチほどあります。

⑥
向井くんのおばあさんに、食べ方を教えていただきました。
まず、2週間ほど灰汁につけ、そのあと、2週間ほど乾燥します。そして、弱火で時間をかけて煎ると完成です。
11月1日、みんなで試食会をしました。かたい皮を割ると、アーモンドのような実が出てきます。味は、アーモンドに似ているという人と、ピーナッツに似ているという人がいました。



⑦
カヤの実は、そのままでも食べられますが、ちょっとパサパサしたり、においが残ることもあります。
これは、カヤの実とチョコチップ入りのクッキーです。「こうばしくておいしかった」「カヤの実はチョコチップととても相性が良く、おいしかった」「さくさくで、本当にピーナッツみたいな味がした」「最初から最後まで口の中はアーモンドの味で、おいしかった」と、大好評でした。みなさんも、試してみませんか。

⑧
ヒダリマキガヤの木は、向井さん個人のものです。しかし、樹齢400年のこの木は、吐山を代表する木です。樹齢300年と言われている下部神社のイチョウの木とともに、吐山のシンボルツリーとし

て、大切にしていきたいと思います。

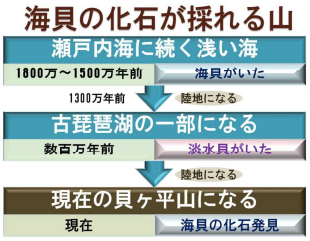
(3) 貝ヶ平山

①
吐山は、奈良市の南の端にあります。そして、吐山の南の端に、貝ヶ平山があります。
貝ヶ平山は、奈良市で一番高い山で、標高が822mあります。そして、貝ヶ平山では、貝の化石が採れます。つまり、昔は海の底だったのです。
一番高い所が海の底というのは、どういうことなのでしょう。

②
先ほどの写真は、榛原から見た貝ヶ平山です。吐山からは、はっきりと見ることができません。
小学校の辺りから見ると、正面に鎌額山が見えます。雨乞いのダケノボリで、登られた山の一つです。その左にあるふたこぶの山が、香酔山です。そして、鎌額山と香酔山の間から、頂上だけ見える山が、貝ヶ平山です。

③
貝ヶ平山を見る、おすすめビュースポットは、宇陀市の榛原フレンドパークです。
フレンドパークから北の方の山を見て、一番低くなっている所が、香酔峠です。
香酔峠の左の山が、香酔山です。香酔山は、標高が795mあって、奈良市で3番目に高い山です。
香酔山の左が、貝ヶ平山です。
また、香酔峠の右を見ると、2つ目に見える高い山が、額井岳です。
額井岳は、標高812mの、奈良市で2番目に高い山です。そのきれいな形から、大和富士と呼ばれています。
つまり、榛原フレンドパークからは、奈良市の1番から3番までの山を、一度に見ることができるのです。

④
それでは、貝ヶ平山で貝の化石が採れるなぞに迫っていきましょう。
今から1800万年ほど前、吐山は瀬戸内海に続く、浅い海の底でした。そこには、海貝やウニやサメなどの生き物が住んでいました。
そして、1300万年ほど前、瀬戸内海の水が引き、火山の噴火物が積もって、陸地になりました。
さらに、数百万年前、周りの土地が高くなり、この辺りは古琵琶湖と言われる湖の一部になりました。今度は、淡水貝などの生き物が暮らすようになったのです。
その後、吐山の辺りは再び陸地になり、長い年月をかけて、現在の貝ヶ平山になったのです。
海貝の化石は、1800万年前の海底時代の地層から見つかってい



ます。それは、吐山の遠い昔を語る、歴史の証人なのです。

⑤

吐山が、浅い海の底だったという証拠は、春明院でも見ることができます。

これは、クロスラミナとよばれる地層です。砂浜の浅い海や、川の河口では、上流から運ばれてきた砂が、斜めに積もります。その積もり方は、水流の強さや方向によって変わります。そうしてできた模様が、クロスラミナなのです。

⑥

昔は、貝ヶ平山だけでなく、下部神社のあたりでも化石が採れたそうです。多くの人が化石採集に訪れた結果、今では簡単には採れません。

これは、化石がたくさん採れた場所の写真です。岩肌をよく見ると、化石のあとがたくさん見つかります。

⑦

この写真は、吐山小学校に保存されている化石です。旧校舎のころには、もっと形のいい化石がたくさん置いてあったそうです。

⑧

奈良県のホームページでは、貝ヶ平山は、榛原から登る山として紹介されています。額井岳もそうですし、榛原からの登山道はきれいに整備されています。また、貝ヶ平山や香酔山の頂上からは、ほとんど景色が見えません。私たちは、奈良市の1番から3番までの山に登り、スズラン群落へ下りてくる登山ルートが整備されるといいと思います。

貝ヶ平山の化石は、今では簡単には採れません。学校や家にある化石と、貝ヶ平山の歴史を展示する場所を作り、伝えていってほしいです。

(4) ハコネサンショウウオ

①

貝ヶ平山の近く、城福寺の谷に、ハコネサンショウウオがすんでいます。地元では、ハゼコイさんという名前で親しまれています。でも、実際に見たという人はとても少なく、なぞの生き物と言えます。

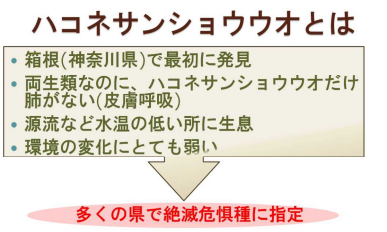
- 吐山の人もほとんど生態を知らない、なぞの生き物

②

ハコネサンショウウオは、サンショウウオの一種で、両生類の仲間です。神奈川県の箱根で最初に発見されたので、ハコネサンショウウオという名前になりました。

ハコネサンショウウオの一番の特ちょうは、両生類なのに肺がないことです。呼吸は皮膚でしています。

川の源流の谷など、水がきれいで水温の低い所にすんでいます。

また、環境の変化にとても弱い生き物です。

そうしたことから、多くの県では絶滅危惧種に指定されています。